

外科紹介

1)手術

現在、常勤外科医2名、非常勤外科医 10 数名にて外来・入院診療を行っています。
常勤医 2 名は消化器外科・肝胆膵外科が専門ですが、乳腺・肛門疾患等も扱っています。3 年間の手術例数を下記に示します。鼠経部ヘルニア、胆石症、大腸癌の手術が多いですが、9割は腹腔鏡で手術を行っています(括弧内は腹腔鏡手術です)。腹腔鏡手術であれば手術創が小さく痛みも少なく入院期間も短くて済みます。鼠経部ヘルニアも従来の鼠経部を切る前方アプローチよりも手術創が小さく術後の疼痛も少ないので腹腔鏡での手術を当院は推奨しています。

	全身麻酔					局所麻酔
	合計	ヘルニア手術	胆摘術	大腸手術	虫垂切除術	
2019	44	19(11)	4(2)	6(6)	5(3)	27
2020	46	13(11)	7(6)	13(11)	7(7)	17
2021	44	19(17)	10(10)	5(5)	4(2)	16

2)化学療法(抗がん剤治療):下記表参照

消化器癌や乳癌の化学療法を中心に行っていますが、手術前後の化学療法はもちろん、再発進行した癌の患者さんについても、症状緩和や QOL(質的生活向上)のために化学療法を行っています。

化学療法患者数推移			
	2019	2020	2021
合計	83	91	42
患者数	11	13	5
大腸癌	4	7	2
胃癌	2	2	1
膵癌	2	4	1
胆管癌	2		
十二指腸癌	1		
乳癌			1

3) 乳腺疾患: 乳腺科を標榜していますが、外科でも診察可能です。

乳癌は女性の癌罹患率の第1位ですが、死亡率は第5位であり、平均の5年生存率は90%以上とされています。早期に発見して早期に治療すれば治癒も可能な癌です。

当院では、健診から手術、癌治療まで行っています。

① 乳がん検診: 乳癌検診は以前のような触診ではなくマンモグラフィーでの検査が最も推奨されています。触診は必ずしも必要ではなく希望されなければ触診も不要です。明らかな腫瘤を認めたり皮膚へ浸潤したりしている時以外は触診することはなく、主にマンモグラフィーで検診をしています。ただ、検診にはマンモグラフィーのみでなく恐らく超音波検査も有効であろうとされているので、当院ではマンモグラフィーと超音波検査で乳癌検診を行なっています。また、水曜日の午前中はマンモグラフィーも超音波も女性の技師が担当していますので、女性技師の検査をご希望であればお申し出ください。

② 手術: 乳腺科専門病院で行われている腋窩リンパ節郭清省略のためのセンチネル法は当院では施行していません。しかし、一般的な手術である乳房全摘術や乳房温存手術(この場合は根治目的のために他病院で放射線治療を追加してもらいます。)に腋窩郭清術を加えた方法は行っています。

③ 化学療法(抗がん剤治療)

乳癌の手術前後に行う化学療法はもちろん行いますし、それ以外に再発転移された場合にも行います。乳癌は他の癌と違い5年や10年経ってから再発や転移を来す場合も多々あります。当院だけでなく他の病院やかなり以前に手術されている方でも、再発転移に対して化学療法を行うことができます。一般的に乳癌の化学療法は他の癌に比して抗がん剤が奏功することが多いので、症状緩和やQOLの改善が期待できます。

4) 肛門疾患: 肛門科だけでなく外科でも診察可能です。

肛門疾患は肛門出血(いわゆる下血とは違い排便時に紙や便につく程度の鮮紅色の出血が多いです。)、肛門部痛、脱肛が三大症状です。

多くは痔核(いぼ痔と言われます)ですが、痔ろう(あな痔と言われます)、裂肛(きれ痔と言われます)もあります。痔ろうは切開や手術が必要ですが、裂肛は自然治癒することが多く、痔核もまずは坐薬で経過を診ます。坐薬で効果がない時には、ジオン注という注射治療や痔核切除という手術を行います。まずは、上記の三大症状がある方は気軽に受診ください。下記に痔核(内痔核と外痔核)、痔ろう、裂肛のシエマ図を示します。

